令和７年３月 25 日
市立札幌豊成支援学校

令和７年度　自己評価書及び学校関係者評価書

１　学校教育目標

よりよく生きる、ともに生きる
　～一人一人の生命を尊び、可能性を拡げ、豊かに生きる子どもを育てる～

２　重点目標

○　教員とリハ職との連携に基づいた「自立活動の指導」の充実
○　豊成の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実現
○　保護者の負担軽減と児童生徒の安全安心の確保に向けた取組の充実

３　本年度の取組の重点

Ⅰ指導の重点	1	教員とリハ職の協働により、学習とリハビリテーション双方の視点による効果的な指導の充実
	2	個別の教育支援計画を活用した継続的な支援の推進
	3	個別の指導計画の活用による「個別最適な学び」の充実に向けた取組
	4	健やかな体の育成に向けた食に関する指導の充実
	5	交流及び共同学習を通じた相互理解の推進
	6	安全・安心な医療的ケアの実施
	7	ICT 機器の活用と効果的な教材・教具の作成
	8	学校いじめ防止基本方針に基づく取組として、日常的な生活支援における見取りを含めた教育相談、及び校内いじめ防止委員会等の実施
Ⅱ経営の重点	1	職員の資質や指導力・専門性の向上と人材育成の仕組みづくり
	2	連携及び協働によるチームとしての動きを大切にした職場環境
	3	肢体不自由特別支援学校のセンター的役割の発信
	4	市教委等と連携した教育相談・支援依頼への対応
	5	ＰＤＣＡシステムによる学校改善
	6	保護者の負担軽減に向けた体制の充実
	7	危機管理意識の醸成と体制整備
	8	公務員としての服務規律の順守

４　自己評価結果に対する学校関係者評価

達成状況（A　十分取組が進んでいる　B　やや取組が進んでいる　C　取組が進んでいない）
自己評価・改善案の適切さ（A　適切である　B　概ね適切である　C　適切ではない）
※「改善の方法」文中の数字は、職員評価で「４：そう思う」「３：どちらかというとそう思う」「２：どちらかというとそう思わない」「１：そう思わない」で評価した結果を表している。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
Ⅰ指導の重点	1　教員とリハ職の協働により、学習とリハビリテーション双方の視点による効果的な指導の充実に向けた取組を行っている。	A	④＋③　100％　教員とリハ職が互いの専門性を発揮し、課題別学習やリハビリテーションの時間など様々な場面で連携・協働を図りながら指導の充実・改善に努める。	A４	A４
	2　個別の教育支援計画を活用した継続的な支援の推進が行われている。	A	④＋③　100％　個別の教育支援計画を活用しながら個々の目標や支援内容を適切に引き継ぎながら、切れ目ない支援の充実に努める。	A４	A３ B１
	3　個別の指導計画の活用による「個別最適な学び」の充実に向けた取組を行っている。	A	④＋③　100％　児童生徒の的確な見立てに基づいた個別の指導計画を作成するとともに、適切な評価に基づく指導の改善に努める。	A４	A３ B１
	4　健やかな体の育成に向けた食に関する指導の充実が図られている。	A	④＋③　100％　児童生徒の実態に応じた形態の給食を提供するとともに、安心・安全な摂食指導を行う。	A４	A４
	5　交流及び共同学習を通じた相互理解の推進が図られている。	A	④＋③　100％　地域の学校と連携を図りながら、児童生徒の実態等に応じた交流及び共同学習の充実に努める。	A４	A４
	6　安全・安心な医療的ケアの実施がなされている。	A	④＋③　100％　主治医やサポート医との連携を図りながら、安全・安心な医療的ケアの実施体制の充実に努める。	A４	A３ B１
	7　ICT 機器の活用と効果的な教材・教具の作成がなされている。	A	④＋③　100％　児童生徒の身体の動きや意思表出の状態等を踏まえ、適切なICT機器の活用や教材・教具の作成に努める。	A４	A４
	8　学校いじめ防止基本方針に基づく取組として、日常的な生活支援における見取りを含めた教育相談や、校内いじめ防止委員会等の実施がなされている。	A	④＋③　100％　日常的な生活における見取りを充実させるとともに、校内いじめ防止委員会等における情報共有を迅速に行う。	A４	A４
	学校関係者評価委員による意見				
	○５交流及び共同学習では、住居のある地域の学校への直接交流は必要なことと思っています。両校の児童生徒にとって普通の学びがたくさんあることを願う。 ○６安全・安心では、サクションの必要な子どもも保護者の付添いなしでプール学習ができることになりよかった。個別で判断しなければならないことも多いと思うが、これからも前向きな対応をお願いする。 ○児童個々の機能に応じた給食提供や歯科指導は適切であり、現場の実践を高く評価する。今後は食具の適合や咀嚼動作を詳細に分析する言語聴覚士の知見を取り入れ、日々のアセスメントに基づくより細やかな摂食指導と誤飲・誤嚥防止をさらに充実させたい。教育的アプローチを深化させ、教職員が確信をもって専門性を発揮できる体制を整えることで、現在の優れた実践を児童生徒の豊かな食生活へ確実に繋げることを期待する。				

	○豊成支援学校には比較的重度な子どもたちが通っていると思うが、特に食事の時などを考えると、言語聴覚士が常駐する環境をできるだけ早く整えるべきである。豊成支援学校の子どもたちのこと（特に安全面）を踏まえると、定期的ではなく常駐し、日常的に対応することが必要と考える。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
Ⅱ経営の重点	1　職員の資質や指導力・専門性の向上と人材育成の仕組みづくりが図られている。	A	④+③　97%　校内研修等の充実に努めるとともに、日常的な取組における学び合いを大切にしながら人材育成を推進する。	A４	A４
	2　連携及び協働によるチームとしての動きを大切にした職場環境に努めている。	A	④+③　97%　多職種の職員同士が教育活動のより一層の充実を目指し、日常的に連携及び協働に努める。	A４	A３ B１
	3　肢体不自由特別支援学校のセンター的役割の発信がなされている。	A	④+③　97%　学校見学会等におけるセンター的機能の周知を進めるとともに、小学校等からの相談の内容を踏まえた対応の充実に努める。	A４	A４
	4　市教委等と連携した教育相談・支援依頼への対応がなされている。	A	④+③　100%　教育委員会や関係機関と連携を図りながら、教育相談等の対応の充実に努める。	A４	A４
	5　ＰＤＣＡシステムによる学校改善が図られている。	A	④+③　97%　各校務分掌及び特別委員会が具体的に中間・年度末反省を実施し、適切な評価に基づく改善に努める。	A４	A４
	6　保護者の負担軽減に向けた体制の充実が図られている。	A	④+③　100%　これまでの段階的な取組の状況を踏まえ、教育委員会とも連携を図りながら保護者の付添いに係る負担軽減に努める。	A４	A３ B１
	7危機管理意識の醸成と体制整備がなされている。	A	④+③　100%　安全・防災対策や情報セキュリティ対策を推進し、危機管理意識の向上と学校事故の防止に努める。	A４	A３ B１
	8　公務員としての服務規律の順守がなされている。	A	④+③　100%　研修等の機会を通じて、定期的・継続的に意識啓発の取組を促し、規範意識や倫理観の醸成を図る。	A４	A４

学校関係者評価委員による意見
○７危機管理では、看護師の常駐がベストだが、災害はいつ起きるかわからないので、そのために教員が医療的ケアの研修を受けてもらうことで保護者も心強いと思う。 ○災害発生時の避難所としての機能を支援学校がもつべきである。特に支援学校に通っている子どもたちは、通常の避難所はよりストレスが多くなることが想定されるため、慣れ親しんだ支援学校が避難所である必要があると考える。すぐには難しいと思うので、段階的に進めていくのがいいのではないか。